

ポータージ プログラムとは？

=0歳から家庭でできる発達支援=



Portage

認定 NPO 法人
日本ポータージ協会

沿革

1980年4月～ 1983年3月	厚生省（当時）の「発達遅滞乳幼児の療育目標と効果に関する研究（分担研究者・山口薫）」においてポータージプログラムのわが国における適用を研究
1981年4月	東京学芸大学附属養護学校（当時）の一室に実験ルームを開設 アメリカ合衆国より、シドニー・ビジュ博士、ジョージ・ジェシーン氏を招いて、全国3カ所で講演会開催日本版『ポータージ乳幼児教育プログラム』を完成し出版 主婦の友育児センター21にポータージ発達相談室開設
1983年11月	アメリカ合衆国にて第1回ポータージセミナー開催 第1回指導者養成研修セミナーを開催（以後年1回開催）
1984年6月 9月	日本ポータージ協会設立
1985年3月	英国における第1回国際ポータージ会議参加（以後2年毎に各国で開催される国際ポータージ会議に参加）
1986年9月	第1回「講演と研究発表会」を開催（以後毎年1回開催 2016年よりポータージフォーラムに改称）
1987年8月	第2回国際ポータージ会議（東京大会）を開催
1988年7月	第6回指導者養成研修セミナー開催（以後年複数回開催）
1990年8月	ポータージ友の会結成、第1回総会開催（以後年1回開催）
1993年11月	指導者養成研修セミナーの中級を開催（以後初級と中級を分けて開催）
1994年3月	日本ポータージ協会認定相談員事例研究会を開催（以後年1回ないし2回開催）
1995年8月	日本ポータージ協会創立10周年記念式典挙行政 東京学芸大学附属養護学校（当時）内実験ルームと主婦の友育児センター21内相談室を終了 事務局に本部ポータージ発達相談室を開設
1996年6月	第7回国際ポータージ会議（広島大会）1998を開催
1998年11月	東京都より特定非営利活動（NPO）法人として認証
2000年3月	第1回親のためのポータージプログラム学習会を開催（以後年1回2016年まで開催）
2001年6月	第10回国際ポータージ会議（マニラ大会）に参加
2004年11月	日本ポータージ協会創立20周年記念式典挙行政 記念誌『二十年の歩み』発行 『新版ポータージ早期教育プログラム』を出版
2005年5月 10月	『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』を出版
2006年9月	第11回国際ポータージ会議（ラトビア大会）に参加
2007年8月	第1回インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム研修セミナーを開催（以後年1回開催）
2008年9月	第12回国際ポータージ会議（オランダ大会）に参加
2010年6月	日本ポータージ協会創立25周年記念事業、講演、パネルディスカッション開催、記念誌『さらなる輝きを』発行
2010年10月	第13回国際ポータージ会議（インド大会）に参加
2012年10月	第14回国際ポータージ会議（ジョージア大会）に参加
2012年11月	ポータージ友の会20周年記念大会、『続・ポータージで育った青年たち 輝いて今をいきいきと』発行
2014年1月	東京都より認定NPO法人として認定
2015年6月	日本ポータージ協会創立30周年記念大会開催
2016年3月	『インクルージョン保育のためのグループ指導カリキュラム』を出版
2017年9月	ポータージ友の会25周年記念大会開催
2020年5月	『ポータージ早期教育プログラム』を出版

1

ポータージプログラムの誕生

ポータージというのは、アメリカ合衆国ウィスコンシン州にある人口1万人ほどの小さな市の名前です。ここのCESA5という州の教育行政援助機関が、連邦政府の助成金を得て研究・開発をして、1972年に『ポータージ早期教育ガイド』として、発達遅滞乳幼児のための早期療育プログラムを刊行しました。大変すぐれたプログラムだったため、その効果は顕著で、全米のみならず世界各国に翻訳されて広まりました。

日本では、1980年から当時の厚生省の研究助成を得て、このプログラムでの適用の研究が進められ、1983年に日本版の『ポータージ乳幼児教育プログラム』が出版されました。

その後、全国での25年間の実践を元に、日本での生活様式や新しい乳幼児教育の知見をふまえて、全面的な改訂作業を行い、2005年に『新版ポータージ早期教育プログラム』が出版されました。また障害のある乳幼児が、集団保育を受ける機会が格段に増えてきた現状に合わせて2005年に『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』それを改訂して2016年には、『インクルージョン保育のためのグループ指導カリキュラム』を出版しています。

さらにその後の特別支援教育や福祉制度や幼児教育の大きな変化に対応して、ポータージプログラムは適用の場が広がり、子育ての環境の変化も著しいため、再度改訂作業を行い『ポータージ早期教育プログラム』を2020年に出版しました。



2

ポータージプログラムの特徴

このプログラムは、発達に遅れや滞りのある子どもや発達に何らか心配のある子どもについて、なるべく早い時期に－できれば0歳からでも－早期教育を行って、効果をあげようというものです。次のような特徴があります。

- ① 一人ひとりの子どもの発達や置かれた環境に対応して、指導計画をたてる個別指導のプログラムです。
- ② 親を中心に家族が、日常生活の中の自然な機会を利用して、指導するプログラムです。
- ③ 応用行動分析学（ABA）の原理を基礎に、指導目標の達成、維持、般化とともに問題行動の軽減を支援します。
- ④ 行動の観察、記録に基づいて、指導を実施するエビデンスベーストアプローチのプログラムです。
- ⑤ ポータージ相談の場合は、子育てに関わる家族全員を支援して、エンパワメントします。笑顔で子育てに取り組め、虐待防止につながります。
- ⑥ 福祉における児童発達支援の場、幼児教育や特別支援教育の場でも個別の発達支援や親・家族支援のツールとして利用できます。

3

ポータージプログラムの構成

● チェックリスト

「乳児期の発達」「社会性」「言語」「身辺自立」「認知」「運動」6つの発達領域ごとに、達成されることが望ましい行動目標が発達の系列に従って、発達年齢0歳から6歳まで561項目配列されています。チェックリストの頁の下の色は領域を表しています。子どもの発達状態のアセスメントや指導目標の選定、指導経過の記録に使用します。



● 発達経過表

初回アセスメント時や指導中に、達成できた行動目標に応じたマスを作成時期別に色塗りすると、発達の特徴や指導経過を概観できます。

● マニュアル・活動カード

〔第Ⅰ部 マニュアル〕

プログラムセットの実際の使い方を中心に、アセスメント－指導－評価の過程をわかりやすく解説しています。

〔第Ⅱ部 活動カード〕

チェックリストの561の行動目標の一つひとつに対応して、カードという形式で援助の方法や指導の手順、教材・教具などの指導示唆を記述しています。見開き2ページに4枚のカードが配置され、サイドの色帯は領域の色になっています。

- ・発達経過表はチェックリストに、はさみこまれています。
- ・「マニュアル・活動カード」は1冊の本になっています。



発達領域ごとの発達年齢段階別行動目標数

発達領域	乳児期の発達	社会性	言語	身辺自立	認知	運動	計
色	水色	灰色	薄緑色	黄色	薄桃色	薄朱色	
発達年齢							
0-6ヵ月	45						
0-1歳		28	14	14	16	45	162
1-2歳		15	19	10	8	18	70
2-3歳		8	21	23	18	15	85
3-4歳		12	13	16	26	16	83
4-5歳		8	10	21	20	15	74
5-6歳		14	11	16	22	24	87
計	45	85	88	100	110	133	561

- ① まず、ポーター相談員と親・家族で子どもの発達の状態や、置かれた環境についてアセスメントをします。チェックリストを使う以外に標準化された発達検査や行動観察なども利用します。

チェックリストでは、「最初の評定」欄に、その行動目標が達成されているものには○印、まだ達成されていないものに－印、達成されているかどうかわからないものに？印、2回に1回くらい達成されているときは△印をつけます。

- ② アセスメントにもとづいて、子どもにとって、今必要で機能的な行動目標を、各発達領域から選び出します。
- ③ 次回までに、無理なく家庭で取り組める、具体的な指導計画を立てます。活動カードを利用したり、課題分析などの指導技法を使います。
- ④ 家庭で一定期間（一カ月程度）指導して、その結果を親・家族が記録シートに記録します。
- ⑤ 家庭での指導を記録したシート類を使って、指導経過と結果をモニタリングしながら、次の目標へと進めていきます。

『ポーター早期教育プログラム』は、ポーター相談員と親・家族で、アセスメント－指導－評価の過程を循環して進めるプログラムです。相談員が子どもを直接指導することより、親・家族が家庭で指導することを中心とするのが指導法の特徴です。



チェックリスト（運動 1-2、2-3、3-4 の一部）の記入例

年齢 段階	カード 番号	行 動 日 標	最初の 評定	目標達成 年月日	生活 年齢	備 考
	61	片手を支えられて、階段をのぼる	○			
	62	腕を回して円を描くような動作をする	○			
	63	口の周りについた食べ物をなめる	○			
2-3	64	2分間で大きなピースを4個通す	○			
	65	その場で両足跳びをする	○			
	66	後ろ向きに2mくらい歩く	○			
	67	片手を支えられて、階段をおりる	○			
	68	1.5mくらい離れた大人に、動かなくても取れるボールを投げる	○			
	69	積み木を6個積み	○			
	70	1ページずつ絵本をめくる	○			
	71	すべり台の階段をのぼり、1～2mすべる	○			
	72	まねをして、紙を半分に折る	－			紙をくしゃくしゃに するだけでやらない
	73	ブロックなどを両手に持って、はめたりはずしたりする	○			
	74	びんのふたなどを回してはずす	－			少し回すがはずすこ とはない
	75	置いてあるボールを蹴る	○			
	76	親指、人さし指、中指でクレヨンを持つ	△			2回に1回は人さし指 を使わない
	77	支えられて、でんぐり返しをする	－			いやがってやろうと しない
	78	正方形の紙を対角線に沿って三角形に1回折る	－			
3-4	79	5本のペグを木づちなどでたたいて入れる	？			このおもちゃがないので やらせたことがない
	80	シールを台紙からはがして貼る	－			シールをはがすが指につ いてうまく貼れない

活動カードの 1 例

(発達領域 運動 15)

15

年齢 0-1

支えられて、おすわりの姿勢を2分間保つ

1. 子どもを床に座らせ、周りに机やクッションを積んで支える。または、子どもをあなたの前に同じ方向を向いて座らせ、床に座った子どもの腰や肩を背後から支える。しだいに支える位置を低くして、腰を支えるだけにする。
2. 子どもをあなたの両脚の間に座らせ、子どもの両腕をあなたの両脚の上に置いて支える。しだいに、子どもの背中を支える力を減らして、子どもが自分の手で支えるように促す。
3. ベビーラックに座らせて、ボールや人形を持たせて遊ばせる。座って長く遊ぶようになったら、あなたは子どもの両手を持ってあなたの方へ引っ張り、わずかな時間、ベビーラックの背もたれから子どもの背中を離す。話しかけたりして、背中を離している時間を少しずつ長くする。
4. 段ボールの箱を切って、そのコーナーを支えに利用してもよい。このときに、切った端は丸くしておく。子どもを箱の角で支え、バランスがとれるように、子どもの両腕を箱の外側へ出しておく。

注意：子どもの背後に危険な物や角がとがっている物を置かないようにする。



相談活動

親（保護者）とお子さんにポータープログラムを家庭で効果的に使うための個別指導計画の作成、指導の仕方などの相談を行っています。相談室に直接来ていただく他、電話相談、家庭訪問、インターネットを使用した通信などでも行っています。

5

指導技法

子どもの行動は、周囲の環境との相互作用によって形成され、維持されています。子どもの行動だけを取り出して、無理に変えようとしても実現性はありません。それよりも親や大人の側の行動を変えたり、周囲の環境を調整することを重視しています。これが応用行動分析（ABA）の原理です。

① 行動そのものに注目する

観察される子どもの行動と、その直前と直後のできごとに注目します。子どもの行動は、その行動に先行する「直前のきっかけ」と、その行動に後続する「直後の結果」を変えることによって、変えることができます。

② してほしい行動を増やして、してほしくない行動を減らす

「直後の結果」を操作して、行動の増減をはかります。望ましい行動をしたら、すぐにほめるという強化の原理、望ましくない行動をしたら、何の強化（注目）もしない「消去」の原理などを使います。望ましい行動を増やして、相対的に望ましくない行動を減らしていきます。

③ 新しい行動を形成する

子どもの発達の状況に応じて、達成可能な小さなステップに細分化したり、単純な行動を形成して、それをつなげたりして行動の形成をはかります。シェイピングやチェイニングという応用行動分析の技法で、援助（プロンプト）の操作が不可欠です。

④ 必要な援助をして行動を達成させて、それをほめることから始める

「直前のきっかけ」を工夫して、行動を起こしやすくします。援助（プロンプト）には、身体的援助、視覚的援助、言語的援助とその組み合わせがあります。援助しても達成したらほめ、援助は徐々に減らしていきます（フェイディング）。ポータープログラムの課題分析では、主にこの考え方を使って指導計画を作ります。

⑤ 望ましくない行動を望ましい行動に変える

望ましくない「問題行動」の形態よりも、機能（要求、注目、逃避・回避、感覚）に注目して、アセスメントをして機能が同じで、より適切なコミュニケーション手段に置きかえる工夫をします。

ポータージ相談の構成部分と 親・家族支援

ポータージ相談は、三つの活動から構成されています。

一つは、今まで説明してきたチェックリストによるアセスメントにもとづいて相談する活動。

二つ目は、その行動を日常場面で応用（般化）し、維持し、定着させていく活動。

三つ目は、家庭での指導が円滑に行われるために、親や家族を支援する活動です。相談員は親自身が抱えている問題にも相談にのります。例えば、医療の問題、就学問題、家族の問題などで親が悩んでいるときは、その問題をまず解決しなければ、子どもへのよい指導もできないでしょう。相談員は、親のよきパートナーとなることが大切です。

ポータージ相談は、応用行動分析の原理を適用して、日常生活のなかで指導することで、親・家族にもそれを学んでもらいます。親をエンパワメントして、子どもの成長した姿を思い描きながらそのために今、何をどうしていけばいいのかを共に話し合い、育児の見通しや希望を感じてもらいます。親・家族による家庭指導に寄り添ったアドバイスを続けます。



日本ポータージ協会の活動の現状

1981年に日本でこのプログラムによる相談がはじめられてから、40年近くが経過しました。1985年には日本ポータージ協会を設立し、全国的な普及につとめてきました。毎年、研修セミナー（初級・中級）を開催し、児童発達支援センター・児童発達支援事業等、保育所、幼稚園、特別支援学校、特別支援学級、保健センターなどで仕事をしているいろいろな職種の方、実際ポータージ相談を受けている親の方々などが受講されました。その方々によって、このプログラムが広がってきています。2000年には、特定非営利活動（NPO）法人として東京都から認証を受けました。そして、2014年1月には、東京都から認定NPO法人として認定され、2019年に更新しました。

日本ポータージ協会では、乳幼児期に、ポータージプログラムで指導した子どもたちの小学校入学後の様子について、追跡調査を行いました。その結果、よい成果をあげていることもわかりました。乳幼児期にポータージ相談を受け、指導を卒業した子どもたちの会として、年1回「ポータージ友の会」を開催しています。

また、こうした個別指導プログラムのほかに、児童発達支援センター・児童発達支援事業等、学校、幼稚園、保育所等の集団の場で使用できる『グループ指導カリキュラム』の研究を進め、2005年に出版し、2016年には、『インクルージョン保育のためのグループ指導カリキュラム』として改訂しました。

日本ポータージ協会の会員種別

正会員 ：日本ポータージ協会の理念に賛同する個人、総会の議決権はない。	年会費 4,000 円 + 寄附
執行会員 ：日本ポータージ協会の理念に賛同する個人、総会の議決権がある。	年会費 4,000 円 + 寄附
団体会員 （事業所単位）：日本ポータージ協会の目的に賛同し入会した団体	年会費 10,000 円 + 寄附
賛助会員 ：日本ポータージ協会の目的に賛同し、財政的援助をする個人・及び団体	一口 10,000 円以上の寄附

ポータージプログラムによる 相談を受けるために

ポータージプログラムは、一人ひとりの発達に応じて個別のカリキュラムをつくります。少し言葉の発達が遅いのではと、心配な子どもから、ダウン症、自閉症スペクトラム障害、脳性マヒなどさまざまな原因による発達遅滞の子どもまで、広い範囲にわたって相談を行っています。次のような方法があります。（詳細は事務局 TEL 03 - 3313 - 4822 にお問合せ下さい。）

- 相談室 本部相談室をはじめ全国各地の支部、施設等で相談を行っています。
- 家庭訪問 家庭に相談員が訪問して行っています。
- 通信による相談 電話やインターネットなどを使って相談を行っています。

セミナー・研修等の活動

- セミナー等 ポータージプログラム初級研修セミナー、中級研修セミナーを開催しています。初級・中級のセミナーを受けた後、相談員の資格認定審査に合格し、日本ポータージ協会の理事会で承認されると、「日本ポータージ協会認定相談員」の認定証が与えられます。認定相談員のための、事例研究会も開催しています。また、グループ指導カリキュラム研修セミナーを開催しています。
- 講師派遣 どんな小さな研修会、親の会の勉強会などでも、要請があれば講師を派遣します。
- スーパーバイジング ポータージプログラムを取り入れている相談員や幼稚園、保育所、児童発達支援事業等を行っている団体に対し、助言や指導を行っています。
- ポータージフォーラム 年次総会や会員交流会、講師を招いての講演会、ワークショップなどを企画して、年一回開催しています。
- 国際活動 アジア各地でポータージワークショップを開催し、ポータージプログラムの普及に務めています。

全国支部と支部活動場所

都道府県		支部名	所在地	都道府県		支部名	所在地
岩手県	1	岩手江刺支部	奥州市	神奈川県	24	横浜支部	横浜市
	2	盛岡支部 (ポータージ療育教室ばっけ)	盛岡市		25	新横浜支部	横浜市
宮城県	3	宮城支部	大崎市		26	鎌倉支部	鎌倉市
	4	仙台支部※	仙台市		27	藤沢支部	藤沢市
福島県	5	いわき小名浜支部※	いわき市		28	相模原支部	相模原市
茨城県	6	茨城県支部	下妻市		29	川崎麻生支部	川崎市
群馬県	7	高崎支部※	高崎市		30	川崎小杉宮前支部	川崎市
埼玉県	8	春日部支部	春日部市	富山県	31	恵光学園支部	富山市
	9	埼玉花崎支部	加須市	石川県	32	金沢支部	金沢市
	10	志木支部	志木市		33	石川湖南支部	金沢市
	11	越谷支部	越谷市		34	南加賀支部	加賀市
	12	所沢支部	所沢市		35	石川能登支部	鳳珠郡
	13	入間ポータージの会	入間市	山梨県	36	甲府支部	山梨市
	14	そらまめの会※	さいたま市		37	甲府第2支部	甲府市
	15	北本支部	北本市		38	富士吉田支部	富士吉田市
千葉県	16	松戸支部	松戸市		39	北巨摩支部	北巨摩郡
東京都	17	大田品川支部	大田区		40	峡中支部	甲斐市
	18	世田谷目黒支部	世田谷区	岐阜県	41	岐阜・江南支部	岐阜市 江南市
	19	世田谷クローバーの会	世田谷区	愛知県	42	愛知支部	名古屋市
	20	立川支部	立川市	大阪府	43	大阪支部	和泉市
	21	青梅支部	青梅市	兵庫県	44	兵庫淡路支部	南あわじ市
	22	江戸川支部	江戸川区	奈良県	45	奈良支部	奈良市
	23	港支部	港区	奈良県	46	奈良やまと支部	生駒市
				広島県	47	広島支部	安芸郡
				山口県	48	山口支部	熊毛郡
				福岡県	49	福岡支部	北九州市

※印は休会中 (2020年6月現在)

- ・ 個別相談に対応していない支部もあります。
- ・ ポータージプログラムの指導をご希望される方は、上記の支部のほか、全国に協会が委嘱している認定相談員がいます。ご紹介致しますので、事務局にご連絡下さい。

日本ポータージ協会の推薦図書

2020年
5月刊行



●『ポータージ早期教育プログラム ー0歳から家庭でできる発達支援ガイドー』

認定 NPO 法人日本ポータージ協会監修

○ プログラムセット

(チェックリスト・発達経過表、マニュアル・活動カード)

定 価：13,500 円

会員価格：10,000 円

〔分売価格〕

○ チェックリスト (発達経過表付き)

定 価：1,500 円 会員価格：1,200 円

○ マニュアル・活動カード

定 価：12,000 円

会員価格：8,800 円

●『ポータージ早期教育プログラム 行動目標達成基準』

(2020 年 9 月販売予定)

認定 NPO 法人日本ポータージ協会監修

定 価：2,000 円 会員価格：1,500 円



●『インクルージョン保育のための グループ指導カリキュラム ー「遊びユニット」中心の多層水準指導ー』

認定 NPO 法人日本ポータージ協会監修

定 価：8,160 円

会員価格：7,140 円

* 上記、セットご購入済の方に、単品で販売します。

○ チェックリスト

定 価：2,550 円 会員価格：2,300 円

○ 解説書

定 価：5,610 円 会員価格：5,000 円

●『インクルージョン保育のためのグループ 指導カリキュラム 行動目標達成基準』

認定 NPO 法人日本ポータージ協会監修

定 価：2,040 円

会員価格：1,830 円

●『発達が気になる子どものための ポーター ジプログラム入門 0歳から家庭でできる 発達支援』

認定 NPO 法人日本ポータージ協会監修

定 価：1,760 円を 1,650 円 合同出版

●『基本から理解したい人のための 子どもの 発達障害と支援の仕方がわかる本』

定 価：1,650 円を 1,530 円

西永堅 著 日本実業出版社

●『適切行動支援 PBS スタディパック ー知的障害のある人の行動障害を減らすスキル を学ぶためにー』

英国行動障害支援協会 原著

定 価：2,970 円を 2,760 円

清水直治 監訳 グラ弘美 編訳

ジアース教育新社

●ポータージ教育玩具

○ 積み木、型はめ、ベグさし、棒さし とんかちベグの木製玩具 5 点セット

認定 NPO 法人日本ポータージ協会考案

定 価：13,500 円 (単品でも購入可)



* 商品は税込価格、送料は別途かかります

※ ご案内の各書籍・玩具のお申し込みは日本ポータージ協会へ

日本ポータージ協会の組織

(2020 年 7 月現在)

名 称	認定 NPO 法人	日本ポータージ協会
会 長	清水 直治	
副 会 長	谷島 邦雄	西永 堅
常務理事	吉川 真知子	
理 事	今林 和哉	大塚 晃 白幡久美子
	高橋 昇	成澤佐知子 橋本 伸子
	宮崎 英憲	柳下 道子 矢作 淳子
	山下由紀恵	
監 事	荻原 稔	星 登志雄
顧 問	土橋とも子	
事務局長	谷島 邦雄 (兼務)	
本 部	〒166-0012 東京都杉並区和田 3 丁目 54 番 5 号 第 10 田中ビル 3 階 3 号室	
所 在 地	TEL 03-3313-4822	FAX 03-3313-2575

日本ポータージ協会に入会ご希望の方は、HP のお問い合わせフォームまたは事務局にお問い合わせください。申し込み書をご請求ください。

認定スーパーバイザーの紹介

百名 真紀子	茨 城 県	柳 下 道子	石 川 県
小 島 訓子	埼 玉 県	小 坂 正 栄	石 川 県
吉川 真知子	千 葉 県	橋 本 伸子	富 山 県
荻原 稔	東 京 都	白幡 久美子	岐 阜 県
清水 直治	東 京 都	加 藤 香	愛 知 県
土橋 とも子	東 京 都	成澤 佐知子	大 阪 府
西永 堅	東 京 都	萩原 和 恵	奈 良 県
矢作 淳子	東 京 都	山下 由紀恵	島 根 県
中西 慶子	神奈川 県	花 田 栄子	福 岡 県
緑川 桂子	神奈川 県	山 口 秀子	佐 賀 県
兼重 瑠亜子	山 梨 県		



輝いて今をいきいきと

—早期からの発達相談と親・家族支援をすすめて—

認定 NPO 法人
日本ポータージ協会

〒166-0012 東京都杉並区和田 3 丁目 54 番 5 号
第 10 田中ビル 3 階 3 号室

電 話 03-3313-4822

F A X 03-3313-2575

E メール jpa@a-net.email.ne.jp

ホームページ (URL) <http://japan-portage.org>

(2020 年 7 月印刷)